

かみさま

佐竹孝太郎

かみさまは見守った  
気づかれないように、そっと  
このままがいいと

かみさまは考えた  
不安そうなあの子を、ほっと  
あたたためてあげたいと

かみさまは悲しんだ  
ぼたぼたと涙を流しながら、ずっと  
気づいてもらいたいと

かみさまは怒った  
ほおをふくらませながら、むっと  
このままじゃ危ないと

かみさまは後悔した  
新しいかみさまと、いっしょに  
遅かったなと

新しいかみさまは思っている  
二度と操りかえすものか、と  
教えてあげなければ、と  
でも、あの時は

あの時は届かなかった思い  
次は絶対に、伝えてみせるね